

- 不登校傾向にある児童生徒への支援
- 不登校になり始めた児童生徒への支援
- 長期間不登校の児童生徒への支援

不登校傾向にある生徒が欠席した日の学習支援

- 取組の進め方
 - ① 不登校傾向にある生徒が欠席した日に、Web会議システムを活用した授業をリアルタイムで配信
 - ② 同時双方向システムを使い、当該生徒が質問をしたり、話合いに参加したりできるよう工夫
 - ③ 全ての授業が終わった後に、担任が生徒に電話連絡し、授業で分からない内容や、授業での困り感を聞き取り
 - ④ 担任は、当該生徒から聞き取った内容を教科担任に伝え、教科担任は当該生徒が登校した日に補習等を実施



○ 効果的な取組とするためのポイント

- ・ 生徒に寄り添った丁寧な対応を心がけること。
- ・ 小規模校の特徴を生かして、教員間の情報交換を密にすること。

- 不登校傾向にある児童生徒への支援
- 不登校になり始めた児童生徒への支援
- 長期間不登校の児童生徒への支援

Web会議システムの活用による、生徒への不登校未然防止に向けた支援

- 取組の進め方
 - ① 保護者と連携しながら、家庭での授業受信環境を整備
 - ② 学級担任は教室にカメラを設置
 - ③ 生徒は自宅においてWeb会議システムにより授業を受講し、必要に応じて話合いに参加
 - ④ 授業以外において、学級担任を中心とした面談等を実施



○ 効果的な取組とするためのポイント

- ・ 授業中においては、教科担任が配信を受ける生徒に対し、適宜直接声かけすることで、生徒の不安の解消に努める。

- 不登校傾向にある児童生徒への支援
- 不登校になり始めた児童生徒への支援
- 長期間不登校の児童生徒への支援

不登校生徒への組織的な対応を推進する教員研修

- 取組の進め方
 - ① ICTの活用推進を図る教員向け校内研修を実施
 - ②校内でICTを効果的に活用する教員が講師役
 - ③実際の不登校生徒の状況を事例として、その生徒に対し、ICTを活用してどのような支援が可能かについて具体を検討



○ 効果的な取組とするためのポイント

- ・**研修**では、全教員が端末及び実際に支援に使用するアプリに触れることで、その**メリットを体感**することができた。
- ・「**ICTでは支援できないこと**」についても**協議**を行うことで、**アナログとデジタルを組み合わせた生徒への支援方法**について理解を深化させることができた。

- 不登校傾向にある児童生徒への支援
- 不登校になり始めた児童生徒への支援
- 長期間不登校の児童生徒への支援

学習支援ツールや授業支援システムを活用した生徒への支援

- 取組の進め方
 - ①保護者との欠席連絡として活用
 - ②欠席者への学習支援のために授業の動画や課題をアップし、動画を観ながらワークシートや学習カードを作成
 - ③生徒は自宅で体調等に応じて視聴や課題を実施
 - ④学級担任や教科担任はWeb上で提出された課題を確認



【Google Classroom の画面】



【Classi「コンテンツボックス」の画面】



【授業内容を PDF 化した画面】

○ 効果的な取組とするためのポイント

- ・実際の授業で板書を行った場合は、**板書の写真を Web上にアップロード**し、内容をPDF化することで、課題や実際の授業に近いように取り組むことができるようにする。
- ・授業だけでなく**欠席中のアンケートの回答**も行う。
- ・Classiの「コンテンツボックス」を活用することで、生徒がどこにいても**スマートフォンがあれば自学自習できる機会を確保**することができる。

- 不登校傾向にある児童生徒への支援
- 不登校になり始めた児童生徒への支援
- 長期間不登校の児童生徒への支援

外部学習支援システムを活用した学習支援

○ 取組の進め方

- ①生徒及び保護者に学習計画や授業実施後における課題の配信方法について確認
- ②HR担任及び教科担任から3教科（国語・数学・外国語）の課題を配信 ※他教科の課題は、家庭訪問時に配付
- ③生徒は、自宅等で外部学習支援システムにより配信された課題に取り組む
- ④担任は、家庭訪問や外部学習支援システムにより学習状況の確認や当該生徒及び保護者への教育相談を実施



○ 効果的な取組とするためのポイント

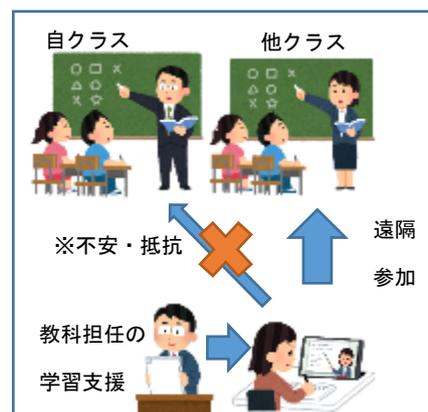
- ・生徒が希望する時間に合わせて学習を行うことができるよう、学習計画を作成する。
- ・生徒の理解度を把握できるよう外部学習支援システムの活用に加え、家庭訪問時に面談等を実施する。
- ・教員が生徒の課題への取組状況を確認し、教科指導の工夫改善等に役立てるようになる。

- 不登校傾向にある児童生徒への支援
- 不登校になり始めた児童生徒への支援
- 長期間不登校の児童生徒への支援

Web会議システムを活用した他のクラスの遠隔授業

○ 取組の進め方

- ①不登校生徒及び保護者からHR担任に対して遠隔授業の要望を受ける。
- ②不登校支援担当教諭と各教科担任で生徒の情報共有をした後、時間割を確認して、配信する授業を決定する。
- ③各教科で、当該生徒が所属している以外のクラスの授業を配信し、生徒は自宅で視聴する。
- ④学習に関する支援や課題の授受については、HR担任を通じて本来の教科担任が行う。



○ 効果的な取組とするためのポイント

- ・不登校生徒の、「たとえ遠隔でも在籍する学級の授業に参加することに不安を感じる。」等の思いに寄り添って対応する。
- ・各教科で授業配信者と教科担任が授業進捗等を情報共有し、当該生徒が評価の際に不利益なく、学習の際に困らないよう配慮して授業を行う。